

不可ナキカ如キモ之ヲ條件トヤス只両者ノ了解ノ下ニ變更
 スル事トヤハ不可ナクトノ意智ヲ洩ス所アリタルモ一方會社側
 ハ依然トシテ強硬ナル態度ニ出ラフ、アレハ該調停ハ目下ノ処成
 立ノ見込之寡キモノト認メラル
 本日罷業職工ハ各個ニ工場事務所ニ至リ給料ノ支拂ヲ受ケ
 タル人負數ハ尤ノ通りニシテ是ニテ大部分ノ支拂ヲ終了シ残
 余ハ約七百名(本工場約百餘名)ハ明十八日午前十時ヨリ午後三時
 迄ノ間ニ於テ引續支拂ヲ為ス筈ナリ
 (イ) 本工場總人負 六百九十七名
 (ロ) 分工場總人負 千六百。九名
 計 二千三百。六名
 尚既報日野國明ニ委託ヤル職工中委任状ノ形式ヲ具備セ
 ルモノ七十五名ハ全人ノ手ニ依リ領収ヲ為セリ
 右及申(通)報候也

特秘 第六五八九號

大正十年六月十七日

大政府知事 池松時和

内務大臣 床次竹二郎殿
 海軍大臣 加藤友三郎殿
 警視總監 岡喜七郎殿
 兵庫縣知事 有吉忠一殿
 大政地方裁判所檢事 正殿

上藤永田造船所勞働爭議ニ関スル件

第三十七報

本日午後六時ヨリ管下天王寺公會堂ニ於テ友愛會
 大政聯合會主催ニテ勞働問題演說會ヲ開催シタルカ
 聴衆ハ藤永田罷工職工火部ヲ台メ往來相澤等目下
 爭議中ノ職工一部ヲ交ヘ約千五百名ヲ算シタリシカ
 六時四十分大政機械勞働組合平井美人ハ開會ノ辭ニ
 亞キ本席上ニ於テ大政勞働者大會ヲ催ス件及白座

6.11